

かわべ

発行 河辺村公民館
編集 館報編集委員会
電話 河辺 17番
佐川印刷 KK
吉田町北小路 2-0600

昭和五十二年を迎えて

村長 稲田 三温



皆さん明けましておめでとございます。新春のお喜びを寿ぎ村民各位の御多幸を心から祈り申し上げます。なおあわせまして、旧年中皆様には格別の御協力により、村行政の振興計画が遂行できましたことに対し衷心より厚く御礼申し上げます。

年頭に当り私の所感の一端を申し上げます。さて、早いもので私も今年二年目で通算十年の歳月が間もなく参りますが、今その経過を静かに振り返ります時、感無量のものがあります。この間、日本の経済は高度成長の波に乗り昭和四十八年まで国民総生産百五十兆円、世界第二位の工業国と言われるまでに飛躍しました。

しかし皆さんも御承知のとおり、あの石油ショック以来、特に工業生産の落ち込みはひどく、五十年には三〇、一〇と三分の一を割る不振となりました。今年は何とか七〇％台にのせる努力がなされていくと聞いています。

一時六〇％と言われた農林漁業者が、今では一割にも満たない現状です。又住民の意識も変化してきました。一口に言ってしまうと、自給率四〇％と割れている現状です。安価の輸入産物に抗して農業はまず土作り、つまり基盤整備にあると思います。将来の農林業改善の政策を今一度検討する必要があります。

今日、福祉優先等と称され、国の年金支払高は五兆円とも言われていますが、今少し我々はすなおに反省し、将来のあり方について語り合い、行動したいものだと思います。

それは、今日で言うコミニティー形成の必要性を強く申し上げたいのです。村内各区の集会所も逐次建築されてまいりました。地方の自治は、その住民によって行われるものであり、そこから盛りあがる皆さんの意志を調整し、より有効な郷土作りを図ることにあろうと思います。

さてこのようなかで、地方自治体も総需要抑制策を余儀なくされる結果となり、計り知れない異変が起きて参りました。主な地域社会は都市化、そして工業化され、

河辺村人口動態

(S 52. 1月1日現)	世帯数	629
	人口	2,385
	男子	1,189
	女子	1,196
(S. 50. 10国調)	世帯数	666
	人口	2,368
(S. 45. 10国調)	世帯数	718
	人口	2,810



弘田 端徳

ゆかねばならないと思いをあらたに致しております。以上、抱負の一端を申しのべましたが、どうか本年も旧年に倍し倍したの御指導、御協力をお願い申し上げます。御挨拶といたしまして、

昨年末「成人の日」をただの休日で過ごしました。この世に生を受けて私も二十年、まだまだ子供供心の抜けきらない私ではあります。成人式を迎えた人誰かが思うことでしょうか、成人

20才になって思う
今日大人の口癖のように言われていることばに「今の若い者は」といふのがありますが、私も若者として決して気持ちよく耳



藤原 千鶴

成人式を迎えたらから、というのではなく、私は成人の日を大きな機会として今日までの考え、行動なりをも一度考えてみて、まだまだ遠い本当の大人を目ざして、明日からの一日くを頑張っていきたいと思っております。

成人の日に当って考えることにもいろいろありますが、私はこのことを深く考え、本場の成人者とう感じるのは何故だろうか。成人式を迎えても、今までの私の生活が変わるはずはないのに、内面的に見れば少しずつ変化しつつあるから不思議である。又、成人式場で大人っぽく装

ふるさとの思い出

福岡市 角 藤 亮

僕が河辺村を出てからもう十五年にもなります。河辺村で過ごした十五年間は、いわば何の責任もない呑気な子供時代でした。楽しい思い出だけが残っているような気がしますが、「故郷に望む」という大変むづかしいことを書くべきところなのだが、そうだが、僕の経験と意見では手に余りますので、今回だけは例外として思いつくままを書かせていただきます。

僕が一番楽しかったと思っっているのは河辺村の冬です。十二月末頃になって夕方の空を仰ぐと、灰色の雪雲が美しく夕焼けに映えるのが見えるようになります。この頃になると、雪が降り積るのを今か今かと待っているのです。ある朝、起きたら戸を開いて見ると突然、あたり一面銀世界となつて光景が目に入ります。一夜のうちに別世界にきたような感じがします。動く人達にとってはやが雪だつたに違いありませんが、何も知らぬ僕や、僕の友達にとっては、運命の扉が開いたかのような感じがする。僕は下の方が

雪の少ない時には、竹スキーをかついで山の上へ登って行ったこともありますが、竹スキーも単に竹を割って曲げただけのものではなくて、板に打ちつけたり、皮バンドをつけてたり作ったものでした。スキーの名人として我々の慕った

雪の少ない時には、竹スキーをかついで山の上へ登って行ったこともありますが、竹スキーも単に竹を割って曲げただけのものではなくて、板に打ちつけたり、皮バンドをつけてたり作ったものでした。スキーの名人として我々の慕った



成人者もカルタとりに奮戦

やねばし

「成人の日」に行われる青年の主張全国大会を、久しぶりにいろいろと静かに聞くことができた。全国各地から難関を勝ち抜いて選ばれただけに、誰と云いようのないくらい皆んな大変上手であった。

今年のテーマは「わたしの親親論」「ふるさとに思う」等について十名の全国代表が、若者らしく、それぞれの個性を發揮し、自己表現をしっかりと訴えているのを聞いて感心した。総評の中でも、「現代若者の壮烈な生きざまや、若さと個性が充分に表現されている」と評されていた。特に私の感じたことは、十名の代表がほとんど全員といってよいほど、学歴や家庭の経済的な面で決して恵まれておられない人達であった。そのような恵条件の中で父親母親が明るく、きびしく生活とたたかって生きてきたことをよくとらえて、自分もこの親達に負けず頑張りたいと主張していたことである。四国代表の泰けい子さんは、身体障害者でありながらその障害にも負けず、人生には謙虚こそ大切だと立派に主張していたのが印象に残る。現代社会世相はこのように甘える傾向の強いときにこのよ様な若者が育ってきていることはまさしく力強い感じを受けたいものである。

人間として社会に生れてきた以上、お互いに人として歩み行なう道歩みかねばならない。人の話を聞いたりの学習した際には、なるほどよい話だった、またよいことを習ったと思つても聞いていたことや習ったことが、行動としてあらわれなければ単なる個人の知識にすぎないものである。社会の不正や不幸に負けず、個人は全体の為にも、もちろん個人の権利や生活を大切にしながら、同時に社会全体の為にもなるようお互いに助け合い、励ましあつて、少しでも明るく豊かなふるさとづくりに努力する必要があると感じた次第である。

